

第150号

せとのおさ



平成30年度「家庭の日」に関する図画 特選作品
「おおいたのおんせんにかぞくとはいった。」 広島市立宇品小学校 1年 ねづ ななみ 根津 七海

青少年育成の基本指針

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



目次

- 2 第30回 定時総会
- 10 平成30年度青少年育成県民運動推進大会
- 14 いきいき地域活動紹介
広島市中区青少年健全育成連絡協議会 呉市青少年補導員連絡協議会
青少年育成東広島市民会議 青少年育成海田町民会議
- 18 「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品
作文の部
特選(広島県知事賞)
東広島市立三ツ城小学校 4年 有光 咲愛「お母さんの四つのたから物」
三原市立久井中学校 2年 前 咲玖良「お母さん」
廿日市市立阿品台中学校 3年 上田 由未「家族でつくる無限大」
図画の部
特選(広島県知事賞)
広島市立宇品小学校 1年 根津 七海
「おおいたのおんせんにかぞくとはいった。」
入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)
東広島市立小谷小学校 2年 近藤 良弥
「お父さんと、水やりをした絵をかきました。」
広島市立翠町小学校 2年 的場 創輝
「キャンプに行って、ながれぼしを見たよ。」
福山市立多治米小学校 3年 杉田 紅桜
「家族で打ち上げ花火を見に行きました。」
広島市立宇品小学校 5年 大西 菜月
「弟が生まれおそろおそろ触ろうとしている所」
広島市立古田台小学校 5年 高橋 李佳
「家族で力を合わせ表彰台にあがりました。」
- 22 「少年の主張」・中学生話し方大会2018
(第40回少年の主張広島県大会 第52回中学生話し方広島大会)
「手話は言葉」 東広島市立八本松中学校 3年 大森 葉和 さん
- 24 あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーン
- 25 青少年サポーター事業
- 26 ひろしまドリームプロジェクト
- 27 青少年育成カレッジ「総合講座」



第30回 定時総会 開催のご報告

第30回総会を 広島YMCA国際文化ホールで開催

公益社団法人青少年育成広島県民会議は、平成30年6月13日（水）13:30～15:30に「第30回定時総会」を広島YMCA国際文化ホールで開催しました。

来賓ご臨席のもと、表彰式、報告事項、審議事項、総会決議等が採択されました。

また平成28年から青少年育成指導者としてご活躍されている山本晃二やまもと こうじさんに「社会復帰の理想と現実」についてご講演いただきました。



上田会長あいさつ



湯崎知事、山木議長祝辞

総会報告

平成29年度事業報告、平成30年度事業計画及び収支予算についての報告、並びに平成29年度決算書、平成29年度監査報告が行われ、承認されました。



【総会議事】



総会決議文朗読 たつななおき
(一社)広島青年会議所理事長 龍永直記氏

総会決議

青少年育成広島県民会議が、昭和52年6月に制定した青少年育成の基本指針の前文には「青少年は日本の希望である。」とあります。

次代を担う青少年が平等に夢と希望を持ち健やかに成長し、未来社会の形成者としての自覚と社会的に自立した個人としての役割と責任を果たしていくための環境づくりは、私たち大人の責務です。

多くの青少年は、家庭、学校、地域社会において暖かく見守られ、健やかに成長しています。しかしながら、青少年を取巻く社会環境は急速に変化しており、いじめやひきこもり、スマートフォンの使用による被害や薬物等の依存など憂慮すべき状況です。さらに、国や県の調査から、経済的な理由などにより子供の権利が守られていない実態が明らかになりました。

私たちは、これまでその時々々の課題に対応した取組を行ってまいりましたが、子どもの権利擁護など新たな課題に対応した取組の拡充が必要です。

青少年育成広島県民会議は、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ運動」を基軸に置きながら、多種多様な問題に即応した取組を行い、日本の希望である青少年を「地域の宝」として、関係機関、団体と手を携えて支援できる環境づくりを進めていくことを、ここに決議します。

平成30年6月13日

公益社団法人青少年育成広島県民会議第30回総会

青少年育成広島県民会議表彰

優れた行為のあった青少年・団体や地域で自主的な活動を積極的に続けている青少年育成功労者・団体・企業を、毎年、定時総会で表彰しています。

平成30年度の青少年育成広島県民会議表彰を受賞された皆様をご紹介します。



青少年育成功労者 (55名)

うめもと まさこ 梅本 昌子 (広島市)	どうもと すみこ 堂本 澄子 (広島市)	おおうえ のぶ お 大上 信夫 (呉市)	はばら ひとみ お 羽原文男 (福山市)
おきなが せつこ 沖永 節子 (広島市)	なかせ まさこ 中瀬 雅子 (広島市)	かとう ちゆうじ 加藤 忠二 (呉市)	さとう ひろし 佐藤 博志 (府中市)
かさ い きぬえ 笠井 絹枝 (広島市)	なかむら やすただ 中村 泰忠 (広島市)	なかの ひてお 中野 英雄 (呉市)	おきた のりあき 沖田 紀明 (三次市)
かしこ みずえ 檜迫 瑞恵 (広島市)	にしむら かずのぶ 西村 一伸 (広島市)	みつやま みつお 満山 光男 (呉市)	かわはら たまさのり 川原田正則 (三次市)
かじもと みさお 梶本 操 (広島市)	ばば たかし 馬場 隆志 (広島市)	やまぐち ゆきお 山口 幸夫 (呉市)	はたけなか まさこ 島中 雅子 (大竹市)
かみこうち まさかず 上河内正和 (広島市)	まえはら ゆうこ 前原 優子 (広島市)	やまさわ そのぶ 山澤 園生 (呉市)	おおやま あきと 大山 明登 (東広島市)
か 茂 かずこ 加茂 和子 (広島市)	まるやま おさむ 丸山 修 (広島市)	もしお ほうしょう 藻塩 芳昭 (竹原市)	さかもと かずひこ 坂本 一彦 (東広島市)
かわちと ちすこ 川本千鶴子 (広島市)	もり きみこ 森 公子 (広島市)	はせ がわたくし 長谷川武司 (三原市)	ふるかわ しゅんとく 古川 春徳 (東広島市)
くほ さだあき 久保 定章 (広島市)	やまね しょうぞう 山根 昌三 (広島市)	みしま まさかず 三島 正一 (三原市)	むらかみ えみこ 村上恵美子 (東広島市)
こいずみ しんじ 小泉 紳二 (広島市)	やまもと きよか 山本 清香 (広島市)	みちはら さだむ 道原 定 (三原市)	いわい よしこ 岩井 芳子 (廿日市市)
しもえ まさし 下江 正志 (広島市)	やまもと ひろみち 山本 博通 (広島市)	ふじわら たかのり 藤原 隆憲 (尾道市)	しもづき よしき 下杉 嘉基 (安芸高田市)
たかうち まこと 高内 誠 (広島市)	よしなが みさこ 吉長美佐子 (広島市)	ますだ ゆうじ 増田 雄二 (尾道市)	やない みつお 柳井美津夫 (海田町)
たかやま えみこ 高山恵美子 (広島市)	よしもと こうじ 吉本 耕司 (広島市)	くす としひろ 楠 敏弘 (福山市)	くるまち なおのり 車地 尚徳 (坂町)
たなか よういち 田中 洋一 (広島市)	わたり えみこ 渡 恵美子 (広島市)	こばやし つぐなお 小林 嗣尚 (福山市)	

青少年 (1名)

かめやま りょう
亀山 凌 (広島市)

模範活動団体 (1団体)

むかいせいねんかい
向青年会 (呉市)

青少年育成功労団体 (4団体)

いつか いちしょうじょ しょうねんだん
五日市少女バレーボールクラブスポーツ少年団 (広島市)

よころ わかとら しょうねんだん
横路若虎スポーツ少年団 (呉市)

こうえきざいだん ほうしん しふ やいく えいかい
公益財団法人 渋谷育英会 (福山市)

よこはまさん ぶ ふくわかい
横浜三部 福和会 (坂町)

(敬称略)

【演題】社会復帰の理想と現実

【講師】青少年育成指導 ^{やま もと こうじ} 山本 晃二さん

〈山本晃二さんプロフィール〉

1977(昭和52)年横浜市生まれ、40歳。

家族5人で暮らしながら、建設業の会社を2つ営んでいる。

また、平成28年度から青少年育成広島県民会議指導者として活動している。

過去に2度の服役もした自身の経験を生かして、現在、保護観察所や地域の保護司の方々と連携をとり、積極的に元受刑者等の雇用に取り組んでいる。

今年4月末には、受刑者等の専用求人広告誌(NEXT)も発刊し、活動の域を広げている。



山本晃二さん講演内容(抜粋)

僕は元犯罪者というようなカテゴリーに入る過去を過ごしてまいりました。自分自身が今まで服役をして、悪いことばかりやってきたので、これから先は犯罪を犯した人間がどのように考えていかなければいけないのかということにきちんと向き合うべきだと思い、このような場に立たせていただいています。

私は7年間、2回服役しました。犯した罪名は、傷害致死、暴行、監禁等いろいろな犯罪を犯してきました。一番大きな事件は、昔、ある小さなめめ事から殴り合いのけんかになり、人が亡くなってしまう事件に関与したことです。本当に大変なことをしてしまいました。

こうして、この場で僕がお話している今もご遺族の方はいらっしゃいますし、ご遺族の方からすると許されないことだと思います。批判や否定があるとは思いますが、僕自身、こういう場でお話をさせていただくことで、犯罪がなくなっていけばいいという思いです。

現在、会社を経営しています。お客さまも当然いらっしゃいますし、従業員の人もいますし、妻も子供もいます。人前に出ることでこうした私の過去を知ることになれば、やはり子どもが周りの友達にいじめられるというリスクもありますし、近所から白い目で見られるということも当然あると思います。ご批判もあると思います。これから先は、せめて良いことをして生きていきたいということでお話をさせていただきます。お聞き苦しいこともあると思いますが、よろしく願いいたします。

僕自身、まだ更生をしたと言い切れるような状態ではないと思っています。最後の服役から5年が経ちました。今、講演などを通じて、いろいろな就労支援や更生保護活動に携わらせていただいています。犯罪・非行をした人への就労支援というと、保護観察所、就労支援機構、協力雇用主会、保護会、保護司の方々、民間のNPO団体、僕らみたいな株式会社や有限の会社、いろいろな人たちが携わっています。ですから、一言で何が正しいとか、どのやり方がいいとかということは一様ではないと思います。

僕はこのようなお話を、保護司の方をはじめ携わる方々にらせていただいています。大先輩方は何十年も一生懸命に本気でやっていらっしゃるので、自信もプライドもおありですから、考え方も当然様々です。皆が一丸となって犯罪・非行をした人への就労支援を進めていくということはなかなか難しいなと、今、感じています。

先週の日曜日の朝、以前の受刑生活で一緒だった人で2年前まで連絡が取れていたのにしばらく連絡が取れなかった人から急に連絡がありました。「久しぶり」ということでびっくりしながらも話をしましたが、知らない間に、また刑務所に1年半行ってたんです。それで今帰ってきて仕事をしていると言います。

僕は、その人と真面目になろうねという話をずっとしていましたが、結局、僕が出所して以降取り組んでいることを彼に言っても届かず、彼は再犯して3回目の刑務所に行きました。今は働いているということでしたが、まだ働いてたかたか3か月目です。彼はもう僕の手が届かないところにいるのではないかと思います。

やはり、そういう人間が僕の近くにもいるということを見ると、行政や専門家の方が推し進めている就労支援では手が回らない点や小回りが必要な点を私のような者がサポートできたらいいのではないかと思います。犯罪をさせない、刑務所に

行かせないようにすることや、教育はすごく大事だと思いますが、でも、その前の段階で、もっと根本的なことが忘れがちなのではないのかと思います。更生や就労支援で僕が一番大事だと思うのは、ちょっと陳腐な言葉に聞こえるかもしれませんが、親や仲間、家族の絶対的な愛情ということ、あまり言われていないように思います。

今、僕の会社に16歳と19歳の男の子がいます。未成年はその子たち二人ですが、両方とも保護司さんから面倒を見てくれるということで受け入れて仕事してもらっています。

一人は、親への暴力が止まらない、お金をせびるで、家族としてはもうお手上げ状態なので、とにかく僕の所に連れて行ってほしいという相談がありました。もちろんそれまで会ったことはありません。そんな話を聞くと、すごく悪い子なのかなと思います。受け入れ後に問題は何も起こしていません。毎日仕事にきちんと行き、言うことは聞かしく、何も問題ありません。

もう一人の子も、道路交通法違反で捕まり、親が受入れをしないので行くところがなく、保護会に行ってもいじめられるから助けてくださいということで、保護司さんからお話をいただいて受け入れましたが、その子も一生懸命に働いてくれています。

彼らにそんなに問題があるように思えないので、なぜだろうとすごく疑問を抱いていました。僕も親なので、親に問題があるのではないかとすることに気づきました。今回この二人には許可を得ていますので、今まで彼らの親御さんがどうその子たちに接してきたのか、少しお話をさせていただこうと思います。

16歳の子の親御さんは、受け入れてから半年が経つ中で、息子がどういう状況なのか気にもしていない状態だったので、息子さんがどんな人たちとどんな仕事をしているのかを一度は必ず見に来てくださと申し上げて、何とか会社に来てもらいました。

彼にはひきこもりのお兄さんがいます。僕は本人と親御さんと一緒に話をしている時に、「お兄さんは元気ですか。」と言いました。すると、本人の前で「いや、ひとり片付いたんで大丈夫です。」と言ったんですよ。その言葉にすごく違和感を感じました。この人は何でそんなことを言うんだろうと思いました。

19歳の子の親御さんには電話で、「一応、こういうふうなかたちで今お預かりしていますので、何かあったら連絡をください。」とご連絡をしたので、普通だったら来ますね。自分の大事な息子を人に預けるという状態は、僕だったら絶対にできないですし自分でどうにかしたいと思いますが、親御さんとは一回も会ったことはありません。それで平気でいられるというのはどういうことでしょう。結局、親がそういう状態だから、本人は、まあいや親なんてとならざるを得ないと思います。

その子たちは、本当にいい子です。僕なりに彼らにきちんと愛情を込めて、毎日、親代わりではないですが、家族として接して、怒るときは怒るし、褒めるときは徹底的に褒めるというかたちで手をつないでいます。

最近、新幹線の中ですごく痛ましい事件が起きました。その時も違和感を感じました。その加害者が悪いというのは大前提ですし、被害者のことを考えたらとんでもない事件だと思います。違和感を感じたのはその加害者の親御さんへのインタビュー記事を読んだときです。淡々とインタビューに応じて、「彼ができることをやっていこう。」と他人事で話をしている、この人は何を言っているんだ、自分の息子が人の命を奪う大変な事件を起こしているのによくインタビューに答えられたなと思いました。そして、その後にもう一つ発言があって、「今は自分の息子だとは思えない。」と書いてありました。そんな勝手なことではない。親が未熟なんです。親が未熟では、やはり子どもさんが方向性を見失うのだとすごく感じました。

だから今日この場で一番話をしたかったのは愛情の話なんです。未成年がきちんと歩いていけるようになるまでは、手を離しては駄目です。絶対的に、おまえは大丈夫だと子供に言ってあげなければいけないし、「愛しているよ」ときちんと子供に伝えるべきではないかなと思うんですね。

僕は子供が3人いて、毎日朝起きたら「愛してるよ」ときちんと言っていますが、別に自慢でも何でもありません。愛情を表現してあげたら、その愛情がきちんと自分に届いているのが感じられたら、悪い仲間集団で悪さをしようよと言われても、あれだけ言われているんだから裏切れないとか、おやじはまじでうざいけど大好きだからできないと考えて、歯止めになっていくのではないかと思います。

とはいえ、愛情をかけて子供に愛情を表現してきたから大丈夫だというわけでもありません。愛情のかけ方についてもいろいろ問題があると思うんです。愛情をいっぱいかけて育てたのに、あいつはあんなふうになった、駄目だと思うこともあるでしょう。

僕自身は少年時代に親に愛情はかけてもらったと思っています。それなのに迷惑をかけているので申し訳ない思いです。僕は三人兄妹で、上に兄、下に妹がいます。中学校1年生ぐらいの時に、当時は改造学生服みたいなのが流行っていました。制服のボタンを替えてみたり、丈を短くしてみたり、裾を太くしてみたりです。僕ももちろんやりました。純粹にかっこいいからやりたいと思いました。先輩もやっているし生徒会長もやっているからいいじゃないかと思ってやったら、親から



批判しかされなかったんです。当然といえば当然です。親もびっくりして、たぶん急にぐれたと思ったんでしょう。完全否定されると反発しか生まれませんでした。

先ほど話をした16歳の男の子は、本当に子供です。いきなり丸坊主にしてみたり、いきなりまっくんきんの金髪にしてみたりするんです。びっくりするじゃないですか。たぶん親御さんだったら「何やってんの、あんた。」とか、「あんた、そんなので学校に行けるわけじゃない。」とか、「あんた、そんなので仕事行ったら怒られるじゃない。」など言うと思うんです。

でも、この間、その子が金髪にした時に「かっこいいじゃん。」と言ったんですね。「かっこいいね、いけてんじゃん、おまえ。どうしたん。三代目みたいだな。」という話をしたら、すごくうれしがるんですよ。本人がかっこいいと思っている三代目 J Soul Brothers に憧れてやっているのです。

それで、まずはきちんと認めてあげてから、学校に行っている子であれば「ただ、今やっちゃあと、学校の先生はびっくりしてダメって言われると思うよ。俺は全然かっこいいと思うけど、今やったら自分が損しないかなというのがちょっと心配。そこをちゃんと考えているのか。」といった後「今じゃなくてもいいんだったら、夏休みのある一定期間だけやればいいんじゃないの。」と言う。そうすると、会話として否定・反発という二言で終わるのが、自分のことをきちんと考えてくれている、まず最初にかっこいいと自分が思ったことに共感してくれて、なおかつ自分の今後のことまで考えてくれていることがわかり素直に受け入れてくれるのではないかと思います。やはり愛情のかけ方というのは、何がいいというのはないですが、まず一回、理解をしてみようというかたちは、すごく大事ではないでしょうか。もちろん、理解できないこともあります。何を言ってるのかなと思うこともあるんですが、まずは一度、その子の目線に下がってあげて、「ああそうか。そういうふうな感じで考えていたんだ。ただね、こういう提案もあるよ。こういう方法もあるんじゃないの。」というかたちで方向性を示してあげれば、たぶん犯罪は減っていくのではないのかと思います。

成人の更生は、行政や専門家の大先輩と一丸になって取り組めば良くなっていくと思っています。これから先に起こるかもしれない犯罪を、どうやったら止めたり少なくすることができるのかなと考えたら、まずは少年たちが犯罪に手を染めないようにしたいです。

僕も7歳の息子がいます。今はいい子です。でも10年後と言ったら17歳で、高校2年生ぐらいです。進学して高校にきちんと行って、例えば東大を目指しているかもしれない。でも、少年院に入っているかもしれない。だから、良いも悪いも子供たちは予備軍です。大人になっていく過程の中で、周りの大人たちがきちんとしたかたちで、犯罪をしないほうが良いという気持ちで接すれば、犯罪を止めることができるし、絶対的に少なくなると思うんです。

僕が偉そうに、では、これからこうしましょう、ああしましょうという話ではありません。今日こうして会場にいらっしゃる皆さんが、青少年の育成に対して意識がおりになってご家族がいるということであれば、恥ずかしいかもしれませんが、まず自分の家族に対して、本当に愛しているんだよ、大丈夫だよ、絶対に何があっても離さないからねと、きちんとした愛情表現で伝えていただきたいと思います。今、ご家族が遠くにいるという方もいらっしゃると思いますが、今日、こうやってお話を聞いてくださっている方々が少しでもそういうことに目を向けてくださったら、何倍もの力で広島県から始まっていくものもあるのではないのかなと思います。

そうすることで、広島県の人口増加にもつながります。例えば犯罪を犯した人が帰ってきやすい環境があれば、その子たちが恋をして、家族をつくって、赤ちゃんが生まれるということになります。今、刑務所や少年院にいてこれから帰ってくる人たちは、きちんと受け入れてあげられる雇用体制があれば、当然、雇用もきちんと増加していく。それは、町にとっても、人にとっても

いいことだと思います。きれいごと聞こえるかもしれませんが、これはやったほうが絶対がいいと思うので、よろしく願いいたします。

実行していらっしゃる方もたくさんいると思いますが、自分の家族にはせめて、すごく好きよ、本当に大好きよと毎日言ってあげることから、まず始めてみたら変わることがあるのではないのかというお話をさせていただきました。

あと、手前みそになりますが、先ほど紹介で言っていたように、僕は今、建設業をやりながら、求人広告誌を作って全国の刑務所に送っています。掲載しているのは福山市の業者さんだけでなく、北海道の業者さんまで、どんどん伸びていますが、これは何かというと、刑務所、少年院にいた人を過去に関係なく雇おうという業者さんです。それは罪名にもよりますよ。とんでもない罪名の人もいるので。でも、ここに載っている業者さんは、おまえが本気で人生やり直したいんだということであれば、雇うよと言ってくれている業者さんです。ですから、刑務所にいるけれども出所前に仕事が決まっている人もいます。受刑者としては、自分がしたことがばれるかもしれないという



求人広告誌NEXT表紙

不安が一番大きな問題ですが、自分の過去は変わりません。過去を言われたら、僕も人前でお話なんかできません。今、そしてこれから先をきちんと見てくれる業者さんがこれだけいるんだよということで発行しています。

先日、6月5日になりますが、NHKさんの『シブ5時』という番組で、東京で同じような取組をしている業者さんとうちとを特集していただきました。また、日本経済新聞や地元の広島ホームテレビさんからも取材が入っています。これは、だからすごいでしょうということではなくて、社会的にそれがいいことだからもっと広めていこうということで、今は少しずつ広まっている感じです。

これを国がやれるかという、やはり難しい部分もあります。僕らは民間で僕らができることをやっています。ご興味がおありでしたら、今日は何部か持ってきていますので、お手元にとって帰っていただければと思います。知り合いの子が少年院に入り、退院しても仕事が全然決まらないんだということがあれば、これらの事業者さんに電話してもらえれば、二つ返事で「いいよ。」とってくれるような熱い人たちばかりが載っています。少年少女の更生に役立てればという思いで用意しましたので、よろしくお願い致します。



会場からの質疑応答

Q1 今の話の中では、山本さんは家庭環境というのはそんなに悪くなかったと言われていましたが、実際、犯罪に手を染めていった経緯と、その一番の原因は何だったのか教えてください。

A1 僕の場合はけんかが強かったのではなくて、中学校の時に、ただ何となく不良グループに入っていて、だんだんと浸かっていきました。例えば、産まれてきていきなり覚せい剤中毒者はいないように、最初は何か好きな文房具を盗むところから始まったと思います。それが、少しずつ、少しずつのずれで、最初は修正されていたものが、中学生、高校も行かないで、仕事には出ていましたが、だんだん悪いことをしていくということが加速していくわけです。

お金を稼ぐのに別に会社に入らなくてもいいやと思って、デリヘルのピラ貼りで1万5,000円ももらえるからいいじゃんと思ってやたらやくざの資金源でした。何となくやくざがかっこよく見えたくて。高級車に乗っていいぞ、好きなように乗り回せと言われて、二十歳そこそこで高級車に乗ったら、もう舞い上がるんでしょうね。それで、どんどんそれがかっこいいと思う、そんな常套手段にはまったのではないのでしょうか。

お金をばんばん払ってクラブで飲んで、力を誇示しているというのがかっこいいと憧れてしまったんです。若いときって、悪い男の子がもてるとか、かっこいいとかありがちです。ちょっと興味があるとかの延長線上で、止まることがなかったんです。

親のせいにするわけではないですよ。僕が絶対に悪いんですが、思い返したら、まだ軽度のときに、おやじが本当にぼこぼこにぶん殴ってくれていたら違ったのかなと感じたことはあるんです。父親は4歳の時に他界しているの、寂しさからくる甘ったれな考えなんですよ。自分でそれを自制しなければいけなかったんです。母親もそこまで手が回らないということを僕は放置されていると勘違いして、どんどん好き勝手なことをやっていて、気付いたら、もう戻れないところまで行ってしまいました。果ては刑務所にも行きました。出てきてからもまた行きましたが、止まらなくなってしまうんです。感覚が麻痺してしまって、悪いことだと思わなくなってしまうという状態でしたね。

Q2 更生して会社を持つまでは、どういう経緯でしたか。

A2 5年前に刑務所を出てきて、その時は働こうと思わなかったんです。妻も子どももいるのにですよ。お金は稼ごうと思っていましたが、働くということが選択肢の中に、きちんと大事に捉えていなかったんです。それで妻に泣かれまして、お金を稼ぐのではなく、仕事をしている姿を見せるべきだと言われて、わんわん泣かれました。取りあえず何か仕事をしなければということで知り合いに頼んだら、1万2,000円くれるという足場屋の社長さんを紹介してもらい、次の日から来いと言ってくださったんです。今、僕らもやっている仕事です。

その人が、先ほど言いました、うちの冊子に載っているような業者さんの中において、過去をあまり言われなかったんです。これから先、頑張っていけばいいということで、すごく信頼してくれて、すごくよくしていただきました。人を

連れて会社のかたちにしろと言われたのが、始めて1年半後ぐらいですか。それが今の株式会社豊生の前身で、株式登記したのは3年前です。

Q3 実際に今こうやって働かれていて、過去の自分を振り返ったらどんな感情が湧いてきますか。

A3 今こうやってこの場に立たせていただいているのも、結局、そういう過去があったからで、なかったら普通の人で、普通のことをやっているだけです。いろんな経験をさせてもらって、失敗もしましたし、指もなくなったり、入れ墨も入ってしまったけれども、今、子どもたちと家族と一緒に、従業員と一緒に、警察に追われることもなく、内偵とかを気にすることもなく、胸を張って生きていけるということは幸せだなと思います。ですから、全然後悔とかはしていません。今があるのは、それも含めてで、なければ、たぶん出会えていない人たちもたくさんいると思うのです。

Q4 迷ったり、苦しんだりしている子がたくさんいるものですか。

A4 少年のそういう事案と出会ったのは、先ほど話した保護司さんから紹介された2件だけなんです。

実際、今の若い子たちがどういうふうな処遇を受けているのかわかりません。これから先は、この冊子の配布先を広げたり、受け入れた事業者さんからの相談には対応していかなくてはいけなくなるのだろうと思います。岡山少年院は入れてくれることになっています。

今の子どもたちは、以前と違うんです。暴走族の単車みたいなのに乗るのはファッションで、それに乗っているのがカッコいいだけ。だから、信号も止まるし、免許も取っている。昔は違います。僕はしていませんが、ねじり鉢巻きをして、特攻服を着て、けんか上等みたいな感じでした。ですから、ちょっと風向きが違ってきているというか、今の子はファッション命ですと言うので、よく分からないですね。全然理解はできません。でも、「へえ、そうなんだ。おしゃれたな。」とかと言ってあげて、「ただ、免許はちゃんと取ろうね。」と言ったら、「分かりました。」と元気よく言うので、まず一回受け止めてあげて、認めてあげてということは意識的にやっています。その子は本当にいい子でした。

Q5 今後も受け入れられる限りは受け入れたいと思っていらっしゃるんですか。

A5 そういう気持ちもあるんですが、やはり現実的に、少年に限らず、例えば高齢の方が受け入れてくれと言ったときに、僕がメインにしているのは建設業です。足場は、これからの時期は死ぬほど暑いし、死ぬほどつらいんです。塗装も、技術がないご高齢の方では、やはり現場には入れられないことが出てくるので、受け入れられる職種の限界を感じました。

それで何かないかなと思ったときに広告とかたちで切り離したら、僕がやっていく活動におけるバックボーンが100社あったら100通りになると思いました。その方たちは、いいと思った人材を受け入れているだけですけれども、やはり建設業だけではしんどいので、逃げ道をつくったかたちです。

今、すごいな、こういうこともあるんだと思ったのは、無期懲役の人からのお手紙です。24年間刑務所に務めていて、生きて出られるか分からない。だけど、すごい資格を持っていらっしゃるって、もし仮に今いらっしゃったら、溶接屋さんなら誰でも使いたい技術と経験を持っている。でも出られない。そういう人たちに対して「私でも大丈夫ですか。」という問い掛けをされたときに、やはり大丈夫だと言わないと駄目だと思います。ですから、今、それを勉強させてもらっている感じです。

やはり強盗殺人で無期懲役で24年服役しています、僕は正直なところ、ちょっとびっくりしてしまいました。皆さんもたぶんそうだと思いますが、では、その人たちを協力雇用主さんたちが、ぱっと受け入れられるかと思ったら、いやいや、ちょっと待ってくださいというのが現実ではないですか。長期刑だったり、犯罪の種類によってよりごのみするという状態があったらなかなか難しい。ただ、飲食店なら分るとか、その罪名が絶対に駄目だということも分かるので、そこはすり合わせていくしかないのかなと思います。



インタビュー

司会：職業斡旋の風当たりは自分自身でどう感じですか。

山本：追い風を感じています。本当にそれは変にいきがって言っているのではなくて、今はテレビの取材とか依頼がどんどん来るんです。それは、うわさを聞きつけて、その放送を見てというかたちです。この間のNHKから、『NHKワールド JAPAN』という番組で世界に配信するんですけどいいですかと聞かれました。

とにかく今は、国がきちんとそれに対して目を向けてくれています。就労支援に対して、きちんと取り組むべきだということに気付いてくれて、コレワークや助成金など、いろんなかたちの取組みをし始めてくれています。

それで民間でやっていることというのが、業者さんのご依頼だったり、北海道の業者さんや、沖縄県的那覇署に息子が捕まっているから助けたいんだけどどうしたらいいのかという千葉のおばあちゃんから電話が入ったりします。これは必要とされることだと思いますから、すごく追い風です。

司会：冷たくされて大変なことたくさんあるのかなと、思いましたがいかがでしょう。

山本：全然ないです。やはり人材不足なので。僕の周りの社長さんはみんな「誰か人おらんか、誰か人おらんか。」と言っています。1年前、2年前と同じことを言っているんですよ。例えばハローワークに出しているとか、有料で3万円、4万円を払って地域で広告を出しても来ないのが現状です。

刑務所や少年院の中にはたくさんきちんとした人がいるんです。全員が駄目なわけではなくて、素晴らしい技術とかを持っているけど、たまたま事件を起こしてしまった人もいます。この間の刑務所脱走事件のように、海を渡ってしまったような人もいます。でも、あの体力とかあの思い切りが事業に転換できたら、ものすごいのではないかなと思います。あんなに逃げられますか。4,000人とか8,000人とかのおまわりさんの目から逃げられるって、そんなことある? と思いませんか。

司会：思いました。

山本：だからパワーがあったり頭がいい人たちがたくさんいるんですよ。でも、それを悪い方向に、楽な方向に向けてしまうというくせがある。そこをゆっくりでいいから、時間がかかってもいいから軌道修正してあげたら、ものすごい力になるのではないかと思います。

司会：今日は、青少年と向き合っている方とか大先輩の方がたくさんいらっしゃいます。難しいなと思っている少年や少女がいて、そういう方の受け入れもしてくださるんですか。

山本：はい。全く大丈夫です。

司会：もしかしたら相談があるかなと思ってお聞きしました。

山本：今、何が多いんですか。犯罪の種類です。

司会：少年で犯罪といったら万引きが多いそうですが、昔とはちょっと変わってきているんでしょうか。

山本：いやいや、僕もやりました。

司会：でも、もう戻りたくない、犯罪はもう絶対に犯さないという気持ちがおありですね。

山本：それはもう、先ほども話をすればよかったなと思うんですが、結局、捕まってもいいやというのは、絶対に裏切れない理由が少ないと、もういいわとなってしまうじゃないですか。だけど、先ほどの愛情の話をしましたが、家族がいて、彼女がいて、子どもがいて、仲間がいて、会社があって、理由がたくさんあったら、もう行かないですね。行けない。その理由づくりをしていけばいいのかなと思います。

平成30年度 青少年育成県民運動推進大会

平成30年10月27日(土)、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、青少年育成県民運動推進大会を開催しました。



大会次第

【開会】

◎国歌斉唱

◎開会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議会長

◎来賓祝辞

広島県知事

広島県議会議長

◎表彰

青少年健全育成功労者等知事表彰

「家庭の日」に関する作品の知事表彰

【少年の主張意見発表】

「少年の主張」・中学生話し方大会2017

広島県知事賞受賞

国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「本当の0(ゼロ)」

舟入高等学校1年 道田武憲さん

【青少年活動発表】

「くまのの絵本作り隊」(熊野町)

【演奏会】

出演者 デュオ・三木 三木健嗣さん(ピアノ)

三木登志江さん(ヴァイオリン)

【閉会】

◎閉会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議副会長

式典では、主催者を代表して、公益社団法人青少年育成広島県民会議 上田宗岡会長が開会のあいさつをしました。



上田 宗岡会長あいさつ

続いて、来賓の広島県知事代理の環境県民局長 森永智絵様、広島県議会議長 山本靖雄様からご祝辞をいただきました。

次に広島県知事表彰を行いました。永年にわたり青少年の健全育成に力を尽くした方々や団体、模範的な活動を行っている団体を表彰しました。また、県内の小・中学生から応募があった「家庭の日」に関する作文・図画の特選に選ばれた3名が県知事表彰を受賞しました。



知事代理森永環境県民局長、山本議長祝辞

大会の終わりにあたり、(公社) 青少年育成広島県民会議の徳弘親利副会長があいさつを行い、すべてのプログラムが無事に終了しました。



徳弘 親利副会長
閉会あいさつ

平成30年度青少年健全育成功労者等知事表彰受賞者

(青少年健全育成功労者23名)

江坂 真里(広島市) 應和 美津子(広島市) 金持 忠彦(広島市) 川本 英輔(坂町) 北村 昭夫(広島市)
 吉川 光司(広島市) 小畑 民子(三原市) 是 光子(広島市) 澤井 憲治(尾道市) 瀬崎 雅史(広島市)
 高原 哲也(広島市) 竹本 典子(広島市) 谷村 敏彦(広島市) 反田 哲顕(広島市) 手賀 剛(広島市)
 寺岡 敏夫(庄原市) 動道 博幸(広島市) 長澤 庸子(福山市) 藤岡 紀彦(三原市) 安井 牧(広島市)
 山田 重夫(広島市) 山本 喜一郎(広島市) 山本 宏一(尾道市)

(育成功労団体3団体)

安佐クラブスポーツ少年団(広島市) 府中剣道教室(府中市) 矢野空手道スポーツ少年団(広島市)



平成30年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者

(作文の部)

特選 東広島市立三ツ城小学校4年 有光 咲愛
 特選 三原市立久井中学校2年 前 咲玖良
 特選 廿日市市立阿品台中学校3年 上田 由未

(図画の部)

特選 広島市立宇品小学校1年 根津 七海



(敬称略, 順不同)

少年の主張意見発表

「少年の主張」・中学生話し方大会2017

広島県知事賞受賞

国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「本当の0（ゼロ）」

舟入高等学校1年 道田武憲さん

※受賞時は広島県立城山中学校3年

昨年度開催した第39回少年の主張広島県大会において、広島県知事賞と国立青少年教育振興機構努力賞を受賞した舟入高等学校1年 道田 武憲さんが、本推進大会で同じ演題で意見発表しました。



青少年活動発表

くまのの絵本作り隊(熊野町)

熊野町町制施行100周年記念事業として、熊野町に語り継がれてきた言い伝えなどを絵本にするため、平成29年度に公募で集まった町内の小学4年生から6年生13人でくまのの絵本作り隊を結成し、3冊の絵本「熊野の筆づくり」「ゆるぎ観音」「佐太夫伝説」を作成しました。大会では絵本作りの過程を発表し、作った絵本のうち「ゆるぎ観音」を紹介しました。

発表者からのメッセージ

絵本作りは初めてでしたが、絵本の題材探しやお話作り、絵を描いたり色を塗る作業など、みんなで力を合わせ一生懸命取り組みました。

たくさんの人たちに、私たちの作った絵本を読んでもらえたら嬉しいです。



演奏会 旅する音楽家 デュオ・三木

1974年に結成し、「旅する音楽家」として国内外で演奏活動を続けられています。クラシック音楽の演奏家として、ロマ（ジプシー）音楽、タンゴ、韓国や中国の伝承歌や日本の民謡など、世界の民族音楽を多くの人に伝えることをライフワークにされています。

そんなお二人の演奏を存分にご堪能いただきました。

プログラム ~program~

1章

アメイジンググレイス …… スコットランド民謡
ウィーン我が夢の街 …… ジーチンスキー
バイオリンソナタ k.301 第2楽章 …… モーツァルト
タイスの瞑想曲 …… マスネ
マドリガル …… シモネッティ
コンドルは飛んでいく …… アンデス民謡
ひばり …… ルーマニア民謡
牧歌 …… モンゴル民謡
ハンガリー舞曲 第5番 …… ブラームス
情熱大陸 …… 葉加瀬太郎

2章

里の秋 …… 海沼 實
赤とんぼ …… 山田 耕作
津軽じょんがら節 …… 青森県民謡
荒城の月 …… 滝 廉太郎
真田丸のテーマ …… 服部 隆之
チゴイネルワイゼン …… サラサーテ



当日は日本シリーズ初戦ということで急きょみんなでカーブにエールを贈りました。

三木 健嗣 Miki Kenji / Piano



「音楽は、医者も治せない病気が治せる」という師の言葉を胸に秘めるピアニスト。闘魂の演奏家といわれる所以は、丑（うし）年の闘牛精神か。その半面で、静かに本を読むのが一番落ち着くと語るAB型。大阪芸術大学演奏科に特待生として学ぶ。新日本フィルハーモニーやNHK交響楽団の首席演奏者等と共演。北九州博覧会「100年シンフォニー」にて『1901シンフォニー』を作曲、演奏。数々のコンサートを企画・プロデュースする。中国や韓国から歌舞団を福山市に招き、中国地方での文化交流に尽力してきた。

三木 登志江 Miki Toshie / Violin



家族とゆるキャラ「イクちゃん」と「ゆっぴー」を愛する天真爛漫な寅（とら）年のB型。子育て支援コンサートにも力を注ぎ、『母の音色と女の音色』を自由自在に操るヴァイオリニスト。東京芸術大学附属高校では、学内オーケストラのコンサートミストレスを努めた。武蔵野音楽大学在学中から、東京モーツァルト合奏団の主要ソリストメンバーとして、各地で演奏。以後、ベルリン室内合奏団、広島交響楽団、新ヴィヴァルディ合奏団、テレマン室内管弦楽団、韓国・浦項市立交響楽団等、多数のオーケストラと共演。日本はもとより、アジアを中心に国際交流を続けている。



中区青少年健全育成連絡協議会（中区青少協）は、広島市中区内の各小学校区で組織する14の地区（学区）青少年健全育成連絡協議会で構成しています。中区青少協では、7月の「青少年によい環境をあたえる運動月間」と、11月の「青少年健全育成強調月間」を中心に様々な行事を行っています。

今回は、10月に行った「中区青少年健全育成大会」の様子を御紹介します。

中区青少年健全育成大会

中区では、平成30年10月から平成31年3月にかけて、「花と緑」と「音楽」を連携させた音楽イベント「なかちゃん音楽の輪」を区内10か所の会場で開催しています。このイベントは、花と緑と音楽を連携させた音楽イベントを繋いで広げていくことにより、にぎわいと活力のあるまちづくりを進めることを目的として行うもので、地域コミュニティの活性化を図り、地域の皆さんと一緒に「笑顔



いっぱい、元気いっぱい」のまちづくりを目指す取組です。

中区青少年健全育成大会は、「青少年健全育成強調月間」行事として、また、「なかちゃん音楽の輪」のオープニングイベントとして、平成30年10月6日（土）にJMSアステールプラザ中ホールにおいて開催しました。

会場のロビーやステージには、区内の花づくりボランティアの皆さんが作られた寄せ植え花や、スタンドに生けられた花々が色とりどりに飾られ、来場された皆さんを華やかに迎えました。

広島市消防音楽隊によるファンファーレで賑やかに開幕した後に、区内の小中学校の児童生徒6名が、普段の学校生活などを通して感じている思いや意見を力強く発表し、会場を埋めた満員の観衆は熱心に耳を傾けていました。その後、広島市立神崎小学校6年生の合唱と広島市立国泰寺中学校吹奏楽部の演奏が披露され、大きな拍手が送られました。また、特別演奏として、市の消防音楽隊



県内各地の市町民会議が、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催しています。今回は4つの活動を紹介します。

いきいき地域活動紹介

市町民会議は県民運動を推進する組織です

のほか、広島市立舟入高等学校吹奏学部やエリザベト音楽大学の皆さんによる演奏も行われ、クオリティの高い演奏で会場の皆さんを魅了しました。

来場した皆さんからは、「子どもたちの意見発表が良かった」「合唱や吹奏楽の演奏では、心が洗われるような感動を味わった」「毎日練習を頑張っている姿が発表に表れていて良かった」などの感想をいただきました。この大会で発表してくれた子どもたちの意見は、「子どもたちの意見発表集」としてとりまとめ発行することとしています。

中区青少協では、毎年開催するこの大会のほか、地域でのあいさつ運動や、多世代でチームを編成し世代間の交流を図りながら木材加工の創作体験をする「多世代交流ウッドコンテスト」など、これからも青少年の健やかな成長を図るための取組を地域と一体となって推進していきます。



呉市青少年補導員連絡協議会



青少年育成呉市市民会議（呉市青少年補導員連絡協議会）は、市内28地区2,149人の青少年補導員から構成される青少年の健全育成を目指す団体です。現在行われている大きな活動を紹介します。

1のつく日の見守り・声かけ活動

県民会議の助成事業から「あいさつ運動」を掲げた幟旗を28地区の各所に設置し、青少年補導員が早朝より、見守り・声かけを実践しています。市内の各地域で行われている活動ですが、青少年への声かけは、地域との結びつきを確かなものにするだけでなく、豊かな成長を育む一助となっています。

こうした地域との絆を深めた小・中・高校生は、今年の豪雨災害では、連日500人以上が復興に向けたボランティアを行いました。市内各地域から感謝の声が届けられました。

祭礼や夜市、花火大会などの行事にもPTAや教職員と共に巡視に出かけ、青少年への声かけを実践しています。

優良青少年補導員表彰

各地区では、毎年3回程度の連絡協議会を設け、学校や警察を交えた情報交換や研修会を実施し、質的向上を行っています。こうした経緯を踏まえ、市内28地区の市民会議からの推薦で優良青少年補導員の表彰を行っています。今年度は、35人の青少年補導員が表彰されます。

特色ある各地区の活動

市内28地区の市民会議では、それぞれ地域の実態に基づいて様々な活

動を行っています。中でも昭和地区や安浦地区、宮原地区等では、毎年テーマを決めて標語の募集を行い、地区内に優秀作品を掲示し、青少年の健全育成を図る取組を続けています。

例えば、テーマを「いじめ防止」とする標語を募集し、市内の小中学校のいじめ防止の取組と連携して、いじめゼロに向けた実践をしています。

郷原地区では、小学生が街頭指導に出る青少年補導員へ標語入りタスキを作成し、地区青少年補導員へ配布しています。

阿賀地区では、本年度「だんらんの日」というテーマでポスターコンクールを行い、優秀な作品については、PR用のポスターとして活用し、地区の啓発に努めています。

また、三条地区では、PTAと連携し、毎日児童の下校時に見守り活動を続けています。こうした活動から、同地区の児童と青少年補導員との結びつきが強く、児童は、地域から温かい愛情を受けて健やかに育っています。このほかにも、下校時の見守りを続けている地区は多く、安全で安心できる登下校体制を実践しています。



青少年育成東広島市民会議

青少年育成東広島市民会議は、昭和55年に結成し、今年で39目になります。

青少年育成東広島市民会議は、市内の青少年の健全育成に関わる団体等の協力のもと、次世代の東広島市を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に様々な活動を行っており、その活動の一部をご紹介します。

HIGASHIHIROSHIMA 『少年の主張』

「HIGASHIHIROSHIMA『少年の主張』」は、東広島市内の中学校の代表生徒が、今日の社会問題について考えたことや日常生活を送る中で感じたこと、思ったことを鋭い視点で主張する意見発表会です。

発表する生徒は、数か月も前から内容を考え、聞く人々の心に響くよう練習を重ねて発表に臨んでおり、毎年、発表を聞かれた皆様から多くの感嘆と賞賛の言葉をいただいています。

昨年度は、東広島市立八本松中学校の大森葉和さんが最優秀賞を受賞し、東広島市立中学校の代表として、今年度の公益社団法人青少年育成広島県民会議主催の「『少年の主張』・

中学生話し方大会2018」に出場しました。その大会では、県内応募総数3,595人の頂点、第1位にあたる広島県知事賞を受賞されました。

東広島市チャレンジランキング

「東広島市チャレンジランキング」は、毎年、11月に開催される東広島市生涯学習フェスティバルの中で、親子で楽しめるゲームを企画したもので、大人と子どものふれあいや子ども同士が交流し、地域における青少年の健全育成を図ることを目的に、青少年の健全育成に関わる団体や広島県立河内高等学校の生徒の協力を得て行っています。



今年度は、「わりばしダーツ」、「サイコロ10」、「ターゲット・スロー」、

「豆つまみ皿うつし」の4つのゲームを行い、約380名の子どもやその保護者の方が参加されました。

家族で競い合ったり、友だち同士で声を掛け合ったりする姿が見られ、家族や友達との交流を深め、楽しく元気なイベントとなりました。

あいさつ・声かけ運動



11月の「子供・若者育成支援強調月間」にあたり、次代を担う青少年の健全育成とともに、明るく安全で住みよい地域社会づくりを進めていくことを目的に、毎年、市内各町において街頭啓発活動として「あいさつ・声かけ運動」を行っています。

各町における青少年の健全な育成に係る団体が駅前や学校付近等にて、通学児童生徒や通勤客等を対象にあいさつ、声かけを行うとともに、啓発グッズを配布します。

今年度は、重点地域を西条地区としてJR西条駅付近で東広島市長とともに「あいさつ・声かけ運動」を行いました。



青少年育成海田町民会議では、青少年健全育成の一環として、平成28年度から、「防災キャンプ」を実施しています。平成29年度は、「震度6弱の大地震が発生した」との想定で、1泊2日の避難所宿泊体験を実施しました。7家族24名の参加者と一緒に、スタッフも防災について学びました。

様々な団体のご協力をいただきながら実施

防災キャンプの実施にあたっては、町民会議だけでは不可能なため、様々な団体のご協力のもと、連携して進めました。

町の防災担当課からは、スライドを使用している「避難所生活の実態」や、「避難所で有効な道具」などについて学びました。

また、朝食後には、参加者全員で町内が一望できる山に登り、山頂から実際の地形を眺めながら、実際に起こり得る災害の想定について学びました。

広島県が公益財団法人ひろしま夢財団に委託して作成した防災教室「ひろしまJプログラム」では、ゲーム感覚で災害発生時の実態について学び、地域の防災士さんたちからは、災害時に使えるロープワークについて学びました。



夕食は、公民館の講座である「未来のまちのおせっかいさん養成講座」のみなさんにご協力いただきました新聞紙、牛乳パック、ビニール袋などを使って食器をつくり、お湯を注ぐだけで炊けるごはんや、レトルトの牛丼などを参加者全員で調理しました。

就寝時は、1人約1畳の段ボールと、

1人1枚の備蓄毛布を支給しました。3月の中旬ということもあり、「底冷えして寒かった。寝袋の必要性、防寒対策が大切だと感じた。」などの声が聞かれました。

アンケートでは、「なかなかできない体験ができたのでよかったです。本当ならもっと大変なことなんだろうと思います。親子で少しでもこれから災害などについて考えていけたらと思います。(40代女性)」「今まで避難所生活のことを深く考えたことはなかったけど、実際に体験してみて、色々なことが実際に体験できてすごくよかったです。(中学生女子)」などの声が聞かれました。

おわりに

このキャンプの数か月後に、当町は西日本豪雨に見舞われました。大変な状況の中で実際に開設された避難所での生活は、やはり、防災キャンプで行ったものとは異なっていました。今年度は、この実体験をもとに、内容を見直して実施することを計画しています。今後も、災害時にも落ち着いて行動できるような青少年の育成を目指してまいります。



明るい家庭の日運動

平成30年度「家庭の日」
に関する作文・図画

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校67校、中学校39校から作文・図画を合わせて2,160作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

審査の結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文20作品、入選図画5作品が選ばれました。

平成30年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品 入賞者

作文の部

●特選（広島県知事賞）

東広島市立三ツ城小学校	4年	有光咲愛	「お母さんの四つのたから物」
三原市立久井中学校	2年	前咲玖良	「お母さん」
廿日市市立阿品台中学校	3年	上田由未	「家族でつくる無限大」

●入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

広島市立牛田小学校	1年	土橋令奈	「あかちゃんがやってきた」
東広島市立龍王小学校	2年	長和湊斗	「いつもいっしょに」
東広島市立小谷小学校	3年	八方陽一	「仕事でがんばるお父さん」
呉市立荘山田小学校	3年	藤本真凛	「わが家へようこそ」
広島市立牛田小学校	5年	佐伯百合子	「お父さん、あのね」
東広島市立三ツ城小学校	5年	木下向日葵	「お母さんのいない生活」
東広島市立三ツ城小学校	5年	佐藤真子	「あの日の夜から」
東広島市立寺西小学校	6年	津川真衣	「夫婦って面白い」
三次市立作木小学校	6年	藤岡千尋	「大好きな神楽と家族」
廿日市市立野坂中学校	1年	神岡和奏	「弟のいないプール」
庄原市立庄原中学校	1年	武広陸希	「雷オヤジ」
広島市立東原中学校	1年	辰崎竜地	「フラダンスと共に」
庄原市立庄原中学校	1年	寺本明夏	「家庭の味と家族の思い出」
広島市立宇品中学校	2年	伊藤悠	「本好き家族」
広島市立中広中学校	2年	柴田理桜	「私がここにいるのは」
東広島市立松賀中学校	2年	寶崎さら	「言葉の意味」
東広島市立松賀中学校	2年	松本静句	「頑固な母」
呉市立呉中央中学校	3年	塩見優莉香	「感謝」
熊野町立熊野東中学校	3年	藤川愛茄	「私のおじいちゃん」
広島市立宇品中学校	3年	門田明那	「お母さんへ」

図画の部

●特選（広島県知事賞）

広島市立宇品小学校	1年	根津七海	「おおいたのおんせんにかぞくとはいった。」
-----------	----	------	-----------------------

●入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

東広島市立小谷小学校	2年	近藤良弥	「お父さんと、水やりをした絵をかきました。」
広島市立翠町小学校	2年	的場創輝	「キャンプに行って、ながれぼしを見たよ。」
福山市立多治米小学校	3年	杉田紅桜	「家族で打ち上げ花火を見に行きました。」
広島市立宇品小学校	5年	大西菜月	「弟が生まれおそるおそる触ろうとしている所」
広島市立古田台小学校	5年	高橋李佳	「家族で力を合わせ表彰台に上がりました。」



お母さんの四つのたから物

東広島市立三ツ城小学校 4年 ありみつ さくら 有光 咲愛

私の家にはいろいろなルールがあります。そのルールのいくつかは、キッチンのかべにはられていて、いつでも見えるようになっていて。その中で私が好きなルールは「家族を大切にしよう」というルールです。私のお母さんが作ったルールですが、私は守らないことが多く、よくおこられます。

私には、姉・妹・弟がいて、家の中は、パーティーのように毎日にぎやかです。そんなある日、事けんが起きました。私が朝ごはんにチョコレートパンを食べようとしていた時、妹が近づいてきてこう言いました。

「そのパン、私も食べたい！」

しかし、そのパンは一つしかなく、しかも、私が大好きなパンだったので、妹にはゆずりたくない気持ちでいっぱいでした。

「あげない！」

少しいじわるなことを言ってみました。すると妹が泣き出し、それに気づいたお母さんがやってきてしまいました。

「半分こしたらどう？」

と言われ、残ねんだけれど半分こすることにしました。

「妹には小さい方をあげたらいいよね。」

そう思い、半分にちぎった小さい方のパンを妹にわたしましたが、妹はなかなかお礼を言ってくれません。そのことをお母さんに伝えると、こう言われました。

「半分こした人が小さい方を取りなさい。」

またルールが一つふえました。一つしかない物をきょうだいで分ける時は、分けた人がせき任を取って小さい方を取り、大きい方を相手にあげるという決まりです。このルールができた日から、半分こする時は、みんな真げんです。なぜなら、自分の物が小さくなるのはいやだからです。周りのみんなもどっちが大きいか、小さいか、じっと見えています。でもこのルールのおかげで食べ物のけんかが少なくなりました。

5才の弟はまだ一人ではできないことがあり、こまって泣くことがあります。きのうは、

「色えんぴつをけすってほしい。」

とぐすぐ言っていました。そんな時にはまたべつのルールがあります。「すぐ下の子の面どうを見る」というルールです。弟がこまっていたら、すぐ上の私の妹がまず助けに行きます。それでも無理なら、私の出番です。自分たちで助け合うことで、お母さんは用事がへり、すごく楽になっているそうです。

私の家のルールは私たち4人のきょうだいがなかよくすごせるためにあります。自分の意見ばかりを相手に伝えるのではなく、相手の気持ちを考えて行動することが必要です。こまっているきょうだいを助け、みんなにたよってもらえる人間に私はなりたいです。これから先、お母さんの四つのたから物がきょうかし合って、もっともっとえ顔があふれる家庭にしていきたいです。



お母さん

三原市立久井中学校 2年 まえ さくら 前 咲玖良

私はお母さんが大好きです。私のぐちゃ相談をまるで自分のことのように聞いてくれて、おこると誰よりもこわくて、一緒に話していると誰よりも楽しい私にとって世界一のお母さんです。でも、私は、お母さんが一番苦しいときに支えてあげることができませんでした。

3年前のある日、私のお父さんがいきなり調子が悪くなって、病院に行って検査を受けました。お父さんはある病気にかかって入院もしないといけなくなりました。私はそれを一緒に病院に行っていたお母さんから聞きました。それを聞いたとき、びっくりしましたが、なぜか何も深く考えることなくわかったと言えました。

しかし、お父さんの病態は日に日に悪くなっていき、お母さんが仕事を休んでまでも毎日病院に行くことが多くなりました。私はそのときバレーのチームに入っていました。だから、試合や練習試合もあったので、

「ごめん、さくら。今日も母さんいけれんけど、がんばってね。」

と、お母さんから言われる日もありました。分かっているけど、やっぱり見に来てほしい気持ちが強くて、

「ちょっと位、私のバレーも見に来てや！」

と強く当たってしまうときもありました。その言葉がお母さんを苦しめてしまったなど今ではすごく反省しています。それは、仕事もして、病院に通って、家事もして、塾やスポーツクラブの送迎までしてくれているすごく大変なお母さんにさらに無理させるようなことを言ってしまったからです。今では、あの言葉は笑い話ですが、本当に自分は最低だなど毎回思います。今では、お父さんも元気になって家族7人で協力して楽しい日々を送っています。

どんなに自分が大変でも「子どもたちが元気なら母さんは幸せよ」といつも言っていました。そうやっていつも自分は後まわしのお母さんに私はあまり「ありがとう」と素直に感謝を伝えることができませんでした。そこで、私が6年生のときの卒業作文でお母さんへの感謝の気持ちを書きました。その作文をお母さんに見せると、お母さんは泣いて喜んでくれました。私もお母さんにつられて一緒に泣いてしまいました。そのとき初めて「母さんの子どもで本当に良かった」と思えました。

お父さんの病気のときは姉の高校受験と重なっていて、お母さんもお姉ちゃんもすごく大変だったと思います。私は時々お母さんに聞きます。

「なんであの時あんながんばれたん？」

お母さんは、

「子どもらが支えてくれたけえよ。」

と言ってくれました。私は何もしてないとそのときすごく思いましたが、お母さんにとっては私たち3人兄妹の学校での話や勉強をがんばっている姿、好きな事を全力で楽しむ姿が心の支えになっていたそうです。私はそれを聞いてとても胸が苦しくなりました。

どんなことも全力でやり切るお母さんは私にとって、家族にとってヒーローです。私はこれ以上お母さんに無理をしてほしくないです。だから、私にできることは何でもしようと思います。こうやって当たり前のように、ご飯が食べれて、勉強ができて、好きなことができる幸せは、お母さんが作ってくれたんだと強く感じます。こんな幸せを与えてくれたお母さんには感謝しきれません。これからたくさん迷惑をかけて、お母さんをたくさん困らせることがあると思いますが、お母さんにはずっと笑顔でいてほしいです。私ももう中学2年生だし、もっとたよってほしいなと思います。だから、これからはお母さんみたいにどんなことでも全力でやり切って、人の役に立てるような、尊敬してもらえるような人になりたいです。お母さん、これからもよろしくお願いします。



家族でつくる無限大

うえだ ゆみ
廿日市市立阿品台中学校 3年 上田 由未

「ねえ、私の足なんか変じゃない？むくんでない？」

と姉が言いました。家族が姉の周りに集まって困った顔をしています。目線の先には、はれ上がったようにむくんだ足があり、小学6年生だった私は訳も分からず、ただ呆然とその光景を目にしていました。

姉は、すぐ病院に行き、診察を受けたところ「ネフローゼ症候群」という腎臓の病気があったことが判明しました。そして言われたのは、「約2か月半の入院」です。私の頭の中は、「どうしてお姉ちゃんなの？」という言葉でいっぱいでした。突然すぎる姉の居ない生活に大きな不安をかかえ、私は眠れない夜を過ごしました。

そして、次の日からスタートした姉の入院生活は思った以上に過酷でした。病院で出たご飯以外のものを食べることは禁止で、部屋から出ておだめ、というあたり前がそうではなく、といったものです。そんな苦しい中でも、姉はお見舞いに来た私を見ると、必ず笑顔で弱音など一切吐きませんでした。だから私も「できる事をしたい」と思い、姉にフォトフレームを飾り付けてプレゼントしました。徹夜をして作ったプレゼントを見て、姉は今まで見たことないほどの喜んだ表情を見せ、何度も「ありがとう」をくり返しました。

丁度その頃、今度は父の体調が悪くなっていました。夜中に救急車で運ばれ、ついに父も入院することになったのです。思ってもいなかった母と2人の生活に私の心は沈んでしまいました。そんな私を見て母は、

「悲しいのは皆一緒。その悲しみを吹き飛ばすのが家族じゃない？」

と言いました。その瞬間、姉が私からのプレゼントを幸せそうに持っている姿が蘇ってきました。そして、「何があっても、笑顔を買おう」と決心したのです。

それからは、行ける日は必ず病院へ足を運び、姉と父が少しでも元気になるように楽しい話をしたりと私なりにできる事を尽くしました。自由に食べられるようになった姉に、自分のお小遣いでケーキを買って持っていったりもしました。そして、その度に見せる家族達の笑顔に「2人が居なくても頑張ろう」という気持ちが強くなりました。時には、父の手術の付き添いで母が帰れず、私は知り合いの方の家に泊まらせてもらったりもしました。少し寂しい思いもしましたが、入院生活を頑張る2人とそれを支える母の姿を思い出すと、そんな思いは無くなります。そんな生活を続けて約3か月が経ち、ついに家族4人がそろいました。沢山の困難と戦ったからこそ感じる家族の絆はかたく、強く、素晴らしい宝物だと実感しました。

今思い出すと、本当に長い道のりだったなあ、と思います。そして、この経験を踏まえて私は、大切なことは「前向きに進むこと」と伝えたいです。そうすればきっと、家族はより明るい道が歩めると思います。



ねづ ななみ
広島市立宇品小学校 1年 根津 七海

おおいたのおんせんにかぞくとはいった。



東広島市立小谷小学校

2年 近藤 良弥

お父さんと、
水やりをした絵をかきました。



広島市立翠町小学校

2年 的場 創輝

キャンプに行って、
ながれぼしを見たよ。



広島市立宇品小学校

5年 大西 菜月

弟が生まれおそろおそろ
触ろうとしている所



福山市立多治米小学校

3年 杉田 紅桜

家族で打ち上げ花火を
見に行きました。



広島市立古田台小学校

5年 高橋 李佳

家族で力を合わせ
表彰台にあがりました。



協賛：広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、
広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、
広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、
広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ

「少年の主張」・ 中学生話し方大会2018

第40回少年の主張広島県大会 第52回中学生話し方広島大会



東広島市立八本松中学校 3年 おおもり はな 大森 葉和 さん



広島県大会の出場者の皆さん

平成30年9月8日(土)、エソール広島において、「少年の主張」・中学生話し方広島大会2018(第40回「少年の主張」広島県大会、第52回中学生話し方広島大会)を広島県中学校話し方連盟と共催で開催しました。

今大会には、県内中学校の42校から3,595編の応募があり、その中から原稿審査を通過した23名が、それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては、身近なことの体験と感想を基に掘り下げて自分の意見を作り出している人が多かったようです。そして自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に活かしていこうとしています。態度はしっかりと、明るく、とても良い発表ができていました。

ここに、広島県知事賞を受賞した東広島市立八本松中学校3年 おおもり はな 大森葉和さんの意見発表を掲載します。

受賞者一覧

受賞名	中学校名	氏名	題名
広島県知事賞	東広島市立八本松中学校	3年 <small>おおもり はな</small> 大森 葉和	手話は言葉
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	庄原市立高野中学校	3年 <small>まえだ あかね</small> 前田 茜	あなたは どうしますか?
広島県中学校話し方連盟会長賞	修道中学校	3年 <small>なかむら あおい</small> 中村 碧	「してあげる」と「させていただく」
国際ソロプチミスト広島会長賞	三次市立塩町中学校	3年 <small>おおおか りこ</small> 大岡 莉子	二つの国、それぞれの思い
広島清流ライオンズクラブ会長賞	広島市立国泰寺中学校	2年 <small>やました みう</small> 山下 美羽	「仲良くしないで。」
優 秀 賞	広島県立広島中学校	2年 <small>みやけ ゆい</small> 三宅 結衣	今の私にできること
優 秀 賞	庄原市立比和中学校	3年 <small>ながた せな</small> 永田 星那	ふるさと「比和」のためにできること
優 秀 賞	広島市立井口中学校	3年 <small>おかだ りさ</small> 岡田 莉紗	心の叫び
優 秀 賞	庄原市立口和中学校	3年 <small>いしだ こうすけ</small> 石田 浩祐	食べられることのありがたさ
優 秀 賞	三次市立布野中学校	3年 <small>おた かずき</small> 小田 和生	挑戦から生まれた挑戦
優 秀 賞	竹原市立賀茂川中学校	3年 <small>ありた みさき</small> 有田 美妃	私たちから・・・

手話は言葉

東広島市立八本松中学校 3年 おおもり はな 大森 葉和 さん

「よろしくお願ひします」
これは私が初めて覚えた手話です。母は少し手話ができます。その母に教わったのです。常々母は「手話は言葉なのよ。」
と言っていました、その意味を深く考えたことはありませんでした。
中学1年の春休み、私は母に誘われて手話サークルに行きました。訳も分からず不安を感じながら参加したサークルの、その日の内容は料理でした。エプロンをつけていると、誰かが私の肩をたたきました。振り返ると、50代くらいの優しい女性がにこにこして、
「こんにちわ。」
と手話をしながら言われたので、私は、
「あれ？」
と思いました。手話サークルには耳の不自由な人ばかりいるのだと思っていたからです。誰でも自由に参加できるのです。
「今日は一緒にがんばろうね。」
と手話で言われ、
「よろしくお願ひします。」
と手話で返しました。よく見ると、この女性の他にも多くのボランティアの方が携わっているのが分かりました。
その後、料理を作りました。メニューは、レモンうどんとカボチャのケーキです。先ほどの女性と私と母と60代くらいの男性と若い女性が同じ班でした。見た目には全然わからなかったのですが、60代くらいの男性と若い女性は耳が不自由でした。
若い女性が私に手話をしてきました。
「あなたは、中学生？」
母が通訳してくれました。
「何部に入っているの？」
と女性が手話で尋ねました。私は筆で字を書く場面をイメージして、
「書道部です。」
と小さくジェスチャーしました。なんだかとても恥ずかしかったのです。しかしジェスチャーが小さく女性には伝わっていませんでした。
そこで口を大きく開けて
「書道部」
と言うと、その口の動きを見て理解してくれました。すると今度はその女性が
「『書道部』はこうやって伝えるんだよ。」
と手話でお手本を見せてくれました。私はその手の動きに目を奪われました。力強くてなめらかでそれはまさしく言葉でした。そのとき私は、母の言った「手話は言葉なのよ」ということを理解したのです。私は「書道部」という手話をいろいろな人に伝えているうちに楽しくなってきました。手話で思いが伝わるのが楽しいのです。
そこで私は同じ班のあの男性に冷蔵庫から取り出すものを
「これでいいですか。」
と身振り手振りで尋ねてみました。すると
「それでいいよ。」
と笑顔と手話で応えてくれました。この手の動きはとてもきりっとして、優しい笑顔がすてきでした。この男性の手話は、先ほどの女性の手話とはまた違う動きでした。私たちが話す言葉が人によって違うように、手話の動きにもその人独特の個性があるのだと分かりました。
帰りの車で今日のことを母に話すと、母は
「手話は、手と顔で伝える言葉なのよ。」
と教えてくれました。母の言葉に納得するとともに、自分の世界が広がった気がしました。手話をするということは手話という言葉で会話することなのです。
私はふと、母はなぜ手話をしているのかと思い尋ねました。すると母は、
「身近に耳が不自由な人がいてね。手話ができたら便利だし、福祉の仕事にも役立つと思ったんよ。それに手話を知っていると、私たちの生活にも役立つんよ。」
と答えました。実際私の家では、簡単な手話を使って会話をしたりします。
「トイレに行こう。」
「次はどうする？」
などです。手話はうるさい場所でも会話できるからです。また、身振り手振りを使うので小さい子にも分かりやすく説明できます。手話について関心を持ち、手話を体験できる機会がもっとあれば通じ合える楽しさが分かるのと思います。私はもっと手話を覚えて、会話する喜びを味わいたいと思います。

「子供・若者育成支援強調月間(11月)」 あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーン

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

核家族化、少子化の進展や地域における人間関係の希薄化などが進む中、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ」の重要性が見直されています。

11月の子供・若者育成支援強調月間にあたり、県内3か所で街頭啓発活動を実施しました。

※広島県が行う「広島県麻薬・覚せい剤乱用防止運動」と連携しています。

～街頭啓発に参加いただいた関係機関、団体～

11月5日(月) JR広島駅南口

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島県
- 広島市青少年健全育成連絡協議会
- 広島市教育委員会
- 広島県高等学校PTA連合会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 広島県議会
- 広島県教育委員会
- 広島県警察



11月7日(水) JR大町駅

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島県
- 広島市青少年健全育成連絡協議会
- 広島市教育委員会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会
- 広島県教育委員会
- 広島県警察



● あいさつはコミュニケーションの第一歩!

● 家庭では

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけをしましょう。
「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」「いってきます」「いってらっしゃい」
- 家族そろって食卓を囲みましょう
食卓を囲んでの会話から、子供の変化が感じられます。

● 学校では

- 登下校時、学校内であいさつ・声かけをしましょう。
通学路、校門、ホームルームなど
- 保護者に対する啓発活動
通信文、保護者会などを活用して

● 地域では

- 登下校時のあいさつ・声かけをしましょう。
地域で子供を育てる
- 地域住民が集い、声をかけあえる場づくりをしましょう。
町内会行事、子供会行事などへの積極的参加の呼びかけ

● 市町等では

- 広報誌・会議・集会などでの呼びかけ
- 関係機関・団体への協力依頼

● 事業所では

- 店内・店頭での声かけ
「いらっしゃい」「おかえり」「今日は早いね」「早く家に帰ろう」

11月8日(木) JR尾道駅

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島県
- 青少年育成尾道市民会議
- 尾道市教育委員会
- 尾道市補導連絡協議会
- 尾道市子ども会育成連合協議会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 広島県警察



青少年サポーター事業

広島県と広島県議会の共催で次代を担う子供たちの社会参画意識を高め、地方自治への理解を深めることを目的とした「広島県子供議会」が開催されるにあたり、公益社団法人青少年育成広島県民会議の今年度の新しい取り組みとして、広島県子供議会に参加する子供議員をサポートする大学生を募集し、育成しました。

■ サポーターの役割

サポーターは、子供議員が、自分たちが暮らす広島県をテーマに事前の勉強会を通して考えたことや、身近な地域の課題について質問や提案にまとめ、県議会の議事堂で発表するまでの活動を支援します。今年度は15名のサポーターが活動しました。



■ サポーター育成研修会

子供議員をサポートするためのノウハウを学ぶ研修会を滋賀県の子ども議会を運営している環境レイカーズ代表の島川武治しまかわたけはるさんの指導により、開催しました。

- 日時 平成30年9月9日(日) 10:00~16:00
- 場所 広島県立総合体育館 地下1階中会議室
- 内容 講師による講義と演習
 - ・子供とのかかわり方やサポーターシップについて
 - ・議会での質問、提案づくりに向けたワーク
 - ・子供議会の運営など

■ 広島県子供議会の活動

子供議員は41人(小学生26人 中学生15人)で以下のプログラムを実施し、サポーターがこれを支援しました。

プログラム	内 容	実施日
勉強会①	◆オリエンテーション ◆子供議員間の交流会 ◆県議会の役割を学ぶ	9月15日(土) 10:00~16:00
勉強会②	◆模擬県議会で発表する質問や提案等の作成(興味・関心のあるテーマごとにグループ編成⇒グループで意見交換⇒質問や提案作成)	10月8日(月・祝) 10:00~16:00
任命式 議員交流会 模擬県議会	◆子供議員任命式 ◆県議会議員との交流会 ◆議場において質問や提案発表 など(当日の様子はYouTubeで配信中)	10月13日(土) 10:00~15:00



「ひろしまドリームプロジェクト事業」 ～オリンピックに夢を乗せて～

小学生を対象に、プロスポーツ選手等による講習会・実技指導等を開催し、きたる2020年のオリンピックに夢を乗せて、青少年の体力向上と機運の醸成をはかり、心身ともにたくましい青少年の健全育成に資することを目的に、平成32年度までの5年間、毎年2種目のスポーツを選び、県内各地で開催します。

平成30年度は「バレーボール」と「バドミントン」を実施しました。

バレーボール講習会・実技指導等

開催日：平成30年6月23日（土）13:30～15:30

会場：東広島運動公園（メインアリーナ）

指導者：日本たばこ産業株式会社男子バレーボール部 JTサンダーズ選手3名

参加者：広島県内の小学生83人

共催：東広島市教育委員会、青少年育成東広島市民会議

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



バドミントン講習会

開催日：平成30年7月27日（金）13:30～15:30

会場：グリーンアリーナ（小アリーナ）

指導者：広島ガスバドミントン部 監督1名、選手6名

参加者：広島県内の小学生75人

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）、広島県バドミントン協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



青少年育成カレッジ 「総合講座」

青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、平成19年から「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学びます。今年のテーマは、「ココロとカラダの栄養バランス」とし、10月6日(土)、12月1日(土)にサテライトキャンパスひろしまで行いました。

第1回

平成30年10月6日(土)
「子どもの糧となるかかわり」



■ 講義I 【子どもの糧となるかかわり】

ながよし みか
永吉 美香 さん

県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 助教

子どもたちは、大人の言葉や行動から、自分に対する「視線」を敏感に感じ取って生活しています。大人のなにげない言動が、どのように子どもたちに受け取られ、行動や育ちにどのように影響していくのか、いろいろなタイプの子どものことについて考えていきます。



■ 講義II 【子どもの心の絆創膏とは～レジリエンスな生き方・育て方～】

うしき みき
宇治木 敏子 さん

特定非営利活動法人日本タッチ・コミュニケーション協会理事長

15～39歳まで日本人の死因第一位は『自殺』という現状を踏まえ、どうすればストレスに強い次世代育成に繋がるのか。不登校の居場所づくり、いじめ問題、乳幼児虐待予防等、社会課題解決に向けての活動を通し、レジリエンス(逆境力)の育て方についてお話しします。



第2回

平成30年12月1日(土)

「子どもが食べ過ぎると起こること」



■ 講義Ⅰ 【子どもが食べ過ぎると起こること】

吉岡 和哉 さん 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 講師

メタボリックシンドロームという診断や肥満症という診断がつく子どもがいます。大人だけでなく子どもにも食事や動くことのバランスが崩れると起こってしまいます。その原因の一つに周りの大人の関わりが大きく影響していることがいわれております。本講座では、子どもの中で起こっている心身の変化や、周りの大人の関わり方などについて考えていきます。



■ 講義Ⅱ 【子どもから高齢者までの地域の居場所づくり】

上 郁子 さん 矢野の家代表

『矢野の家』は空き家を解放し、地域住民の方々とともに、『健康であること』『楽しい暮らしであること』を目指しながら、高齢者だけでなく子どもも、大人も、どなたでも来ていただける地域の居場所です。家の前の畑を活用し、野菜の種まきから収穫・調理までを子どもたちにも体験させ、食への興味をもつきっかけづくりを行っています。食を通した多世代交流や第三の居場所づくりについてお話しします。



■ 講義Ⅲ 【子どもを育む多世代のつながり】

工藤 亜紀江 さん

特定非営利活動法人もちもちの木 地域コミュニティ支援事業部 保健師

もちもちの木は古江と庚午の2か所で子育て世代支援事業を行っています。対象は未就園児とママ&プレママですが、地域の方や、もちもちの木の利用者(デイサービスやグループホーム)の方など、多世代での関わりも大切にしています。季節ならではの行事は、子どもだけでなく、大人や高齢者の方にも楽しめるものです。核家族が多い現代において、多世代で一緒に時間を過ごすことは、子どもたちにとっても、親世代以外と関わるとても大切な機会になると考えています。もちもちの木での活動や取組をお話しします。



「認証状」授与式

青少年育成カレッジでは、所定の20単位(1講座1単位)を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を発行しています。

これまでに69名の方が修得されていますが、平成30年度は新たに10名の方が修得されました。





子どもの糧となる関わり

ながよし みか 永吉 美香 さん 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 助教

はじめに

どんな関わりが子どもの糧となるかは難しいテーマです。原因と結果が一直線につながっているようなシンプルなものではないからです。今回の講座では、この難しいテーマを、地域の皆さんと共に考えることが大切と考え、前半を講義にし、後半を架空ケースについてのディスカッションにしました。本稿では、講義で触れたアタッチメント（愛着）とセルフエスティーム（自己肯定感）の概略を述べ、地域の大人として何ができるかについて考えてみたいと思います。

アタッチメントとセルフエスティーム

アタッチメント（愛着）とはボウルビィが提唱した概念で、パーソナリティの生涯発達を理解するための総合理論です。特定の人に物理的・情緒的にくっつく（アタッチする）ことは、安定した発達のために必要とされています。一般には幼少期のアタッチメントが人生を左右するイメージがあると思いますが、近年の研究では、幼少期のアタッチメントは、人生のその後の時期での他者へのアタッチメントにより変わりうることを示唆されています。一方で、幼少期のアタッチメントの質が逆境に晒された場合の耐性（レジリエンス）に影響することも示されており、著しく適切でない養育を受けることで脳に器質的な変化が起こること等とも関連しているのではないかとされています。

セルフエスティーム（自己肯定感）は古くは18世紀から哲学の分野で議論されてきた概念で、今も研究され新たな定義が提案され続けています。近年では、本来性（ありのままの自分らしさ）が発揮できることが重視されています。セルフエスティームの原型は、幼少期のアタッチメントの構築と深く関連していると考えられますし、それ以降に日々積み重なる経験の中でも形成されていくと思います。

日本の子育て環境

日本の子育て環境は、アタッチメントとセルフエスティームを醸成するのに必ずしも適した環境ではないと思います。

アタッチメントは、小舟が大海に下ろす錨のようなもので、探索を広げていく際の起点となるものですから、愛着対象の大人＝錨の安定性と、小舟と錨を繋ぐ紐の強さが重要となります。種としてのヒトの子育ての特徴は、“コミュニティ内の複数者で育てることを前提としていること”だと言われていますが、今の日本では“みんなで育てる”が閉ざされ、たくさんの養育者が孤独の中で子育てをしています。また、スマホ等の普及も、大量の情報により養育者が混乱したり、追い詰められた現実から逃避したりしやすい状況を作っています。みんなで育てない、ヒトとして無理のある子育ての中で追い詰められることで錨が不安定になりやすくなっていると言えます。

また、親子といえども、感覚、認知、行動などにはずれがあることも実は多くあります。アタッチメントは、相互作用によって形作られていくので、あまりに通じ合えない相手とは紐が弱々しい

ものになってしまいます。ここで、周囲の通じ合える誰かとアタッチメントを結ぶことができれば、「親子といえどもそれぞれ違う」ことを肯定しやすくなると思うのですが、現実ではそうなることは稀であり、親子のアタッチメントの問題は複雑になっていきます。

セルフエスティームについては、日本の養育や教育においては、集団に合わせたり、何かの目標を達成したりといった点に重きをおく傾向が強いため、自分の“本来性”を肯定できない日常を過ごしている子どもも多いと思われます。このことは若者の自殺率やうつ傾向の高さと無関係ではないはずで

子どもの糧になる関わり

それでは地域で暮らす大人は、どんな関わりができるでしょうか。私が地域の皆様に提案したいのは、“追い詰めている可能性を自覚する”ことと“一緒に何かをする”ことの2点です。消極的で曖昧な提案に聞こえるかもしれませんが、この2点だけでも周囲の大人が実行できればいろいろな変化が起こるのではないかと考えています。(具体的な関わる時のヒントについては表1に示しました。)

“追い詰めている可能性を自覚する”については、子どもに対して「ダメな人間だ」と取れるメッセージを送ったり、今後の経験を狭めるような排除をおこなったりしていないか、養育者に対して「親のせいだ」などの思いに囚われすぎていないか等を自問することが第一歩だと思います。子どものアタッチメントとセルフエスティームを改善させるためには、養育者に安心感と余裕を持ってもらえるよう、地域の大人が支えることが重要になります。

“一緒に何かをすること”は、養育者以外の大人とアタッチメントを築く機会を作り、本来性を発揮できる基盤を育てることに有用であると思います。“する”ことで気持ちが変わることは脳科学的にも注目されています。また本来性を発揮するには内発的動機付けと自己と他者への信頼感が必要であると言われていいますので、その子自身が関心を持った“何か”を“一緒に”行うことはセルフエスティームとアタッチメントを同時に高める近道です。特に、何らかの課題を抱えている子どもは、すでに色々な経験から継続的に疎外されている場合も多いため、意図的に共に“する”場と機会を作り、子どもの潜在力を信じつつ、さりげなくサポートしながら経験を共有していくことが大切だと思います。家族以外の人と共に“何か”を“する”場は、ちょっと違う文化や世界を見せる窓としても機能でき、この経験が彼らの命綱とならないとも限りません。

表1:関わる際のヒント

親しみやすい方法で近づく(波長を合わせる、真似る)
大切であるというサインを与える(視線、スキンシップなど)
健康的な依存を誘う
コンパスの基準として振る舞う(ブレない)
具体的な活動を共有する。(身体感覚を伴うものが望ましい)
相手の関心事に関心を示す
理解しようとする(行動をよく見て考える、もしくは本人に尋ねる)

参考:“思春期の親子関係を取り戻す”ニューフィールド著

終わりに

アタッチメントとセルフエスティームは、いろいろなところで広く使用されている概念です。しかし、一歩間違えれば、育ちを親子や個人の問題に閉じ込めてしまい、子どもや養育者をより苦しめてしまう概念でもあります。地域の大人一人ひとりが、子どもたちのアタッチメントとセルフエスティームを、社会全体として守り育てようという気持ちを持ち、行動を起こしていくことが重要だと思います。



子どもが食べ過ぎると起こること

よしおか かずや
吉岡 和哉 さん 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 講師

日本の小児肥満について

日本において小児肥満の頻度は男女ともに1977年と2000年で比較した場合、各年齢で増加しており、男子では約2倍、女子では1.5倍になっています。1977年では、男女差はほとんど認められませんでした。しかし、男子の増加は女子よりも徐々に大きくなり、12歳の男子では約12%、女子では約10%に認められました。その後2005年頃までは男女ともにほぼ横ばいでしたが、2006年以降は男女ともに減少傾向を示しています。年齢毎の肥満傾向の子どもの頻度は、男女ともに6歳から徐々に増加し、11-12歳でピークに達し、14歳にかけて低下します。しかし、男子では15歳から再び大きく増加し、その後は低下傾向を示します。一方女子は、15歳でやや増加し、それ以降は同程度で推移しています。この14-15歳頃の体重増加は、特に男子で3%程度と著しく、高校受験や運動量の減少などの要因が考えられています。



小児肥満の要因

肥満の原因は、主に過食によって発症すると考えられています。近年では、高カロリー・高脂肪食や運動不足になりやすい環境が肥満を助長しやすい状況として捉えられています。

小児肥満と健康障害について

肥満は小児期からでもさまざまな健康障害を引き起こしています。身体的な問題として高血圧、睡眠時無呼吸症候群、2型糖尿病、メタボリックシンドローム、動脈硬化、心疾患などのリスクを高めます。また、心理社会的な問題として、いじめにあうなど、自己肯定感・自尊心の低下が認められる場合もあります。その結果、無気力や不登校に陥ることなど社会生活に参加しにくい状況になる場合もあります。また、小児肥満が成人の肥満に移行することが問題として取り上げられています。そこで子どもの肥満に対する対応方について考えていきます。

作業療法の視点で食事を考える

まず作業療法の1つのモデルをベースに人が行う活動について考えてみます。作業療法では、その人にとって活動を行うことの意味や目的、価値について本人や周りの人から話を伺います。食事がその人にとって、楽しみであったり料理を食べてもらうことが愛情表現の一つとなったり、家族団らんなど楽しいこととして考えられると思います。このような食事は多くの楽しい時間を提供してくれる活動になると考えられます。しかし、子どもの生活の中で、食べ物やお菓子が、

気持ちや行動をコントロールする手段の一つになってしまうことがあります。このように子どもの行動や気持ちのコントロールに食べ物やお菓子を用いることが習慣化してしまうと、結果的に気持ちを満たすための方法として食べ物やお菓子を食えないと落ち着かない状態が習慣化することが考えられます。つまり必要以上にカロリーを摂ることで、肥満のきっかけになってしまいます。大人の予定で動かないといけない状況では、仕方ない場合もあるかもしれませんが、絶対に必要でない場面においては、食べるだけでなく人がしっかりと触れ合えることも重要です。



食事のコントロールと合わせて、肥満の改善のために行われることは運動です。研究の中で、肥満のある子どもと一般の小学生では、運動に対する自信に差は認められないのですが、一緒に遊べる同程度の運動スキルをもった友だちが近くに住んでいないことで、遊び込むことができず、自信が無くなっていることが考えられます。

では、肥満のある子どもに対して作業療法士が考える予防についての工夫を説明します。予防の内容は皆さん聞いたことがあると思いますが、食べ過ぎないことや運動をするという行動が求められるのです。その際に重要なことは、どんな方法で誰と行うのか、また一緒に行う人が工夫することなど、その子どもや家族に合わせた形で提案・相談を進めていきます。

まず、作業療法士が子どもや家族の相談の中で、食事に対する意味や価値を認識します。そして、子どもが身体の赴くまま自由に食べるのではなく、必要な量を美味しく食べられるようにするための食事の工夫を提案するとともに、家族でも一緒に取り組めるように相談を行います。例えば子ども1人だけ特別メニューになってしまうことで疎外感を感じるなど、楽しい食事でなくなることが考えられますので、家族みんな同じメニューで食事ができるといいでしょう。また、友だちと一緒に過ごす中で、お菓子を食べることが求められる場面では、状況に合わせて、周りとは異なるようにお菓子を食べることも価値のある食事の行動になります。その場合は、1週間など短い期間で摂取カロリーのコントロールを努めるようにし、お菓子を食べたことがダメであったという理解をしないことが重要になってきます。



次に運動に関しては、同程度の運動スキルの子もたちとの活動の場所が必要だと考えます。子どもたちは運動したいけど、体型が大きいことで動かしにくく、他の友だちとは同じ速さで動くことには苦手意識を感じていることがあります。

食事や運動は、子ども1人で頑張り続けることは難しいため、家族や周りの人たちと一緒に活動が取り組める環境が重要になってきます。また、その時に、対象となる子どもや家族にとって、食事や運動が一生懸命取り組む活動ではなく、楽しみながら取り組める価値のある活動となるように工夫していくサポートが重要になります。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

7月1日～7月31日

青少年の非行・被害防止
全国強調月間

11月1日～11月30日

子供・若者育成支援
強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、ひろしまドリームプロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日
法人格取得 平成2年10月21日
認定日 平成23年3月22日
育成積立金 5億円(平成3年度設置)
会長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

Information

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのため活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、機関紙「せとのあさ」やホームページをご覧ください。

<http://www.hiro-payd.or.jp>

■正会員

(年額)	個人	3,000円
	団体	5,000円

■賛助会員

(年額一口)	個人	1,000円
	団体	10,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」等をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

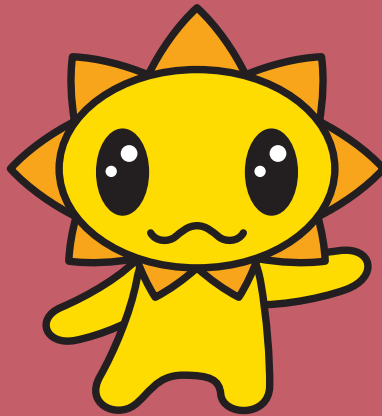
口座番号／(普通)233251

口座名義／(公社)青少年育成広島県民会議



「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

せとのあさ ー第150号ー

平成31年2月発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL.082-513-2742 FAX.082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>

題字／茶道 上田宗箇流
第十六代家元 上田宗冨